

令和7年度 顕彰・研究助成贈呈式

令和8年2月7日（土）、令和7年度 顕彰・研究助成贈呈式を執り行いました。

当日は顕彰受賞者および研究助成採択者の先生方にご出席いただき、顕彰および研究助成の贈呈を行いました。

式典では、理事長より本財団の助成事業の趣旨および研究活動への期待について挨拶があり、その後、顕彰の授与および研究助成金の贈呈が行われました。

本資料では、顕彰を受賞された先生方からいただいたご挨拶の一部をご紹介します。



【 顕彰受賞者 】

五十音順・敬称略

氏名	現職（施設名）	顕彰理由
乾 和郎	医療法人山下病院 名誉院長	膵胆道疾患に対する様々な内視鏡診断および治療の開発と臨床応用に尽力し、国内外への普及に貢献した功績
金子 公一	埼玉医科大学 名誉教授	胸腔鏡手術の我が国での地位確立に寄与し、呼吸器内視鏡の専門医制度の発展に貢献した功績
徳村 弘実	東北労災病院 名誉院長	腹腔鏡下胆嚢・総胆管結石術の普及に貢献し、手術の標準化と患者のQOL向上に貢献した功績
門馬 久美子	公益財団法人早期胃癌検診協会 理事長	早期食道癌に対する内視鏡診断と内視鏡治療の普及および中・下咽頭癌の早期発見の普及に貢献した功績

山下病院 名誉院長 乾 和郎 先生



この度は、伝統ある内視鏡医学研究振興財団の顕彰をいただき、誠にありがとうございます。
理事長の五十嵐良典先生をはじめ関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

私は、1979年に名古屋大学医学部を卒業後、愛知県安城市にある八千代病院で研修を始めました。当時、名古屋大学第一外科の講師だった二村雄次先生に胃カメラをはじめ、ERCP・EST、PTCD・PTCS、血管造影などを教えていただきました。中でも、膵管口切開術や経皮経肝胆嚢内視鏡（PTCCS）といった世界で初めての手技を一緒に行う機会に恵まれました。PTCCSは当財団の1985年度研究助成を受けております。

1984年、癌研究会付属病院での半年間の研修後、名古屋大学第二内科に入局しました。そこで、2年前にご逝去されました中澤三郎先生が率いる第六研究室（通称6研）に所属し、中澤先生の薫陶を受け、さまざまな内視鏡を用いた診断法や治療法の開発に携わることができました。1989年に中澤先生が藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院（現藤田医科大学ばんたね病院）に教授として赴任されるのを機に、兄弟子である芳野純治先生とご一緒させていただきました。

この間、1991年度に「内視鏡的乳頭部圧測定法による乳頭機能の臨床的検討」、1994年度に「MR内視鏡による消化器癌の診断」、2000年度に「3D-IDUSによる膵胆道癌の3次元画像診断の新しい展開」というテーマで当財団の研究助成を受賞しましたこと、感謝いたしております。MR内視鏡とIDUSは世界中から注目され、海外での学会報告は勿論、招待を受けて講演する機会も多くあり、素晴らしい経験をさせていただきました。内視鏡に関する臨床研究では、名大二内6研グループの関連病院である山下病院、豊橋市民病院、半田市立半田病院、公立陶生病院などの先生方に大変お世話になりました。また、研究開発に多大なる熱意をもって取り組んでいただいたオリンパス関係者の方々にも心から感謝申し上げます。

本日このような名誉ある顕彰をいただけましたことは、中澤先生をはじめ、名大二内6研、藤田医科大学ばんたね病院消化器内科の先生方、さらに開発に関係していただいた方々のおかげと厚く御礼を申し上げます。

最後になりますが、本財団が今後も日本の内視鏡医学の研究発展に寄与していただくことを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。